

Informatica Master Data Management

マスターデータ管理が必要な6つの理由

- クロスセル／アップセルの機会を活用することで、顧客満足度を高めて顧客を維持し、ワレットシェア（顧客内シェア）を伸ばす。
- 業務の生産性を差別化要因として活用する。
- 企業データの連結を整流化して、短期間で相乗効果を引き出すことにより、M&AのROIを最大化する。
- 規模を問わず、あらゆるアナリティクスで高い品質と整合性を備えたデータを使用することにより、商機を効果的に特定し、その価値を高める。
- データのプロファイリング、探索、クレンジング、標準化、エンリッチ化、マッチング、マージを中央リポジトリで自動化して、業務部門の効率とIT部門のパフォーマンスを向上させる。
- 重要な企業データを部門、チャンネル、事業、地域、アプリケーション間で戦略的かつ安全に共有および管理する。

すべての重要な業務データのためのエンドツーエンドの単一プラットフォーム

信頼できるデータへ迅速にアクセスすることが今ほど重要なときは、かつてありませんでした。M&A（企業の合併と買収）によって競争環境が変化中、カスタマーエクスペリエンスはビジネスの主要な差別化要因となっています。またさまざまな規制の強化により、違反した場合の罰則も厳格化しています。M&Aは、かつては見られなかったような成長を促進する要因になっています。また技術革新を背景に、より短時間で商品を市場投入する方法も出現しています。さらに、グレートデータ（顧客、サプライヤー、所在地、商品に関する完全な統合ビュー）により、カスタマーエクスペリエンスの強化とビジネスプロセスの改善が可能になっています。

デジタル経済においては、部門ごとの硬直したデータビューを、柔軟性に優れた全社規模のエコシステムへと転換して、俊敏性を獲得しなければなりません。そのためには、オンプレミスシステムとクラウドシステムにまたがる各種の基幹業務データを統合する必要があります。包括的で完全なデータに基づいて、企業にとって最も重要なインサイト（顧客、サプライヤー、商品、所在地など）を詳細かつ広範に把握しなければなりません。何よりも、業務上の意思決定者が、信頼できる360度ビューへ迅速かつ直接アクセスして、データに裏打ちされた最適なアクションを実行する必要があります。

Informatica MDMは、信頼できる360度ビューを構築するための、業界最先端のソリューションです。世界中の企業がInformatica MDMを導入して、業務担当者によるデータへの容易なアクセスを実現することで、コストの削減、収益の増加、業務の改善、リスクの軽減、商機の活用などに関する戦略的な意思決定を支援しています。業界で唯一の真のエンドツーエンドMDMソリューションとして、データ統合、データ品質、データガバナンス、ビジネスプロセス管理、マスターデータ管理の各機能をベンダーに依存しないオープンな単一のプラットフォームで提供することにより、短期間で優れた価値を発揮します。

Informatica MDMによって、次のことが可能になります。

- 販売チーム、サービスチーム、マーケティングチームに豊富な顧客情報を提供して、提案作成、問題解決、セグメント化、ターゲティング、高いキャンペーンROIを実現
- 正確なレポートをタイムリーに提出することで、法規制へのコンプライアンスを強化して、罰則を回避
- 重要な意思決定に必要な、品質と関連性に優れた信頼できるデータを経営幹部に提供
- ビジネスプロセス（受注から入金、調達から支払、顧客やサプライヤーのオンボーディングなど）を改善
- ビジネスパートナーやチャネルパートナーをより効果的に管理して、間接販売の増加を促進
- 合併の整流化、リスクの軽減、M&Aによる株主へのリターンを最大化を実現することで、ビジネスの成長を促す
- 現在および将来のニーズにも対応する柔軟なビジネスモデルで、企業ごとに異なるMDMの業務要件を満たす

Informatica MDMの差別化要因

1. エンドツーエンドのデータ管理機能

Informatica MDMにより、データの取り込みから使用まで、データの管理と改善を自動化できます。Informatica MDMは、活用されていない関連データのソースを探索して、管理属性に応じて最適な形式にモデリングします。データをクレンジング、検証、重複排除してから、他のソースの情報でエンリッチ化し、レコード間の関係を取り込みます。データを確実にビジネスルールに準拠させることで、セキュリティとコンプライアンスを強化できます。最適なユーザーへ、最適なプロセスを通じて、最適なタイミングで最適なコンテキストと共にデータを提供できます。データに関する問題の評価と解決に必要なインサイトを獲得して、より効果的なデータガバナンスを実現します。

2. ハイブリッド環境に対応した複数の導入オプション

Informatica MDMによって、エンタープライズレベルの機能をオンプレミス、クラウド、Hadoopで利用することが可能になります。規模の大小には関係なく、また特定のベンダーに制約されることもありません。優れたモジュール性、俊敏性、柔軟性により、クラウドコンピューティングを効果的に活用しながら、オンプレミスのレガシーアプリケーションも必要がある限り長期にわたりサポートできます。Informatica MDMは、それぞれの要件に応じて、複数の導入オプションを円滑に切り替えることも、完全なハイブリッド環境として利用することもできます。

3. デジタルエンタープライズ対応

Informatica MDMでは、あらゆるタイプとソースのデータを管理できるため、社内のデータを高品質に保ち、複数のビジネスプロセスに容易に統合して、有意義なインサイトを獲得できます。またトランザクションデータ、インタラクションデータ、IoTデータ、サードパーティの補足データを連携させることが可能になるため、より高度なデータ主導型のイニシアチブを実行できます。インフォマティカのGraphテクノロジーでは、直感的にデータを確認して関係性を把握し、実用性に優れた新たなインサイトを獲得して次の最適なアクションを予測できます。

4. アプリ対応のプラットフォーム

Informatica MDMは、業務上重要なマスターデータ（顧客、商品、サプライヤーなど）を管理するための柔軟性に優れたソリューションです。インフォマティカのIntelligent Data Platformを基盤にしているMDMでは、カスタムデータを使用してビジネスアプリケーションを柔軟に開発できます。インフォマティカの4つの技術的構成要素（データ品質、データのエンリッチ化、ビジネスプロセスマネジメント、データ

統合）により、Informatica MDMユーザーは、業界、ユースケース、データタイプを問わず、インフォマティカのプラットフォーム上で質の高いカスタムアプリを構築できます。インフォマティカは、MDM - Customer 360、MDM - Product 360、MDM - Supplier 360、MDM - Relate 360など、マスターデータを基盤とする構築済みアプリも提供しています。

